



くさーんすとす

No.81

発行 新潟県石仏の会(代表 星野 紀子) 2012年9月15日 発行
 事務局 〒945-0837 柏崎市三島町16-2 渡邊三四一 電話0257-22-1941
 ホームページ <http://niigata-sekibutu.vox.jp>

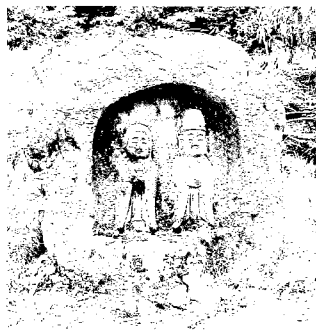
石仏散歩

父と道祖神

長岡市 山内 弘二

昭和四〇年初夏の頃だろうか、父と下田村(現三条市)の旧道に道祖神探しに出かけた。林の草藪には必ず数体の道祖神が埋もれている。掘り起こすと必ず蛇に遭遇する。道祖神は蛇の守護神であろうか。付近の古老に聞く。何故埋もれているのかと聞けば、

「昔、道普請でじゃまだから、後で並べただけだよ」と言う。私たちも文献(当時は文献は無い)に無い道祖神は先人に真似して並べた。後世には「並んでいる、並んでいる」と歓呼の声が上がるだろうと父は言う。



埋もれた道祖神を発見する第六感執念であろう。愛用のローライフレックスで撮影して、寸法石の種類、付近の状況を調査する。その頃には私の草刈り、整地、洗い清めも終わり、父は新たに見つけた道祖神にお神酒を上げ、重々しく供養するのです。父と調査しながら数えたら、栃尾に一〇四体、下田に七五体あるが、近年盗竊する悪者が多い。自宅の玄関口に置くのだろうか？

父がある時、「苗場山頂に道祖神がある、調査

を」と。数年後、愛妻と私(昔はデブでない)、前日秋山郷小赤沢に泊まり、翌早朝、天に続くほどの尾根を上り続ける(簡単に登山を請け負ったことを反省しながら、本当に神が居るのだろうか?)。苗場の美しい湿地帯を抜けて。小高い山頂に高さ四〇糎、風雨に晒された道祖神の文字は浅い。僅かな水で清めてお神酒を上げ供養する。この重い神を誰が山頂に供え、登山者の安全を祈願したのか、その方が頭が下がる。

いつまでも山頂の双体道祖神にお礼を言いながら下山した。

昭和五八年一月、真冬の十日町は厳しい。自宅前の融雪江に父の初孫が、体もろとも流されて死んだ。不憫に思い、父の故郷(六日町小栗山)と十日町との中間地点「八箇峠」に自費で双体道祖神(高さ二米五〇糎)

を長岡の石屋に依頼して安置した。左に赤子を抱き、右に御幣(養育費?)を持ち、孫の将来を依頼するさまは、哀れさを感じ涙が出る。その父は、長年研究した道祖神の未完成本「愛の神々・越後の道祖神」の校正資料を持って保養地先で果てる。昭和六〇年真夏!

今は父のことを語る人はいない。我が家の庭にも父母の双体道祖神がある。

長岡市雲出町の 石仏巡りに参加して

長岡市 深滝 純一
(中越地区事務局)

風薫る五月十三日(日)、新潟県石仏の会中越地区は他地域からの会員を含めた二十六名の参加をいただいて、長岡市の雲出町方面の石仏見学を行いました。

雲出町の香林寺は上杉謙信公の母堂縁りの地とされ、後にその供養のために植えられたしだれ桜の大樹でも有名な寺です。雲出町には庚申塔や、光明真言塔ほかの多くの石造物がありました。歴史の古い香林寺と落ち着いた周囲の風景は、見学会参加者の臉に焼きついたものと思われまます。

「庚申塔」は、今、地域の神社の境内や村外れに人々の生活から忘れ去られたようにひっそりと佇んでいます。もとは中国伝来の道教の庚申信仰に基づいたものとされ、人間の体内に棲む三尸(さんし)の虫がその人の眠っている間に体内から抜け出し、天帝にその人の悪事を報告に行くことを防ぐため、

庚申の日に天帝等をお祀りして夜通し勤行をしたり、講の仲間たちと酒を酌み交わしたものであるとされています。「クスッ」と思わず微笑んでしまいそうな話ですが、医学の進んでいない時代の先人たちが必死に祈りを捧げ、そして石の庚申塔を立てたという現実を考えると三尸虫の話を決して笑っては



江戸末期に建立の馬頭観音像

いけないのだと思います。

私の住まいは長岡市栃尾新町の通称「馬市小路(うまいちこうじ)」にあります。

私が小学校3年生の時ですから、昭和三十三年の七月二十四日の馬市まで年

に一度の馬市が立ちました。農耕用の馬や牛が出店され、その売買が行われたのでした。三十一年には駄馬が一頭だけ出店されましたが。翌年、つまり馬市最後の年は牛の出店しかありませんでした。ですから、馬市小路に住んでいた私はなぜか「馬頭観音」に親近感を持っていたために、今回の馬頭観音像を嬉しく拝見させていただきました。

また、このたびの見学に「竹割力士の墓」がありました。伝承によれば今から百七十年ほど昔、村の神明社で行われた相撲大会で勝ち誇った竹割という力士が、帰路、村外れで敗れた力士と口論の末に殺害され、後に村びとたちが竹割力士の供養のために墓を立てて弔ったものだと言われています。

不思議なことに草相撲の強者には、これに類する伝承が多く伝わっています。私の住む栃尾の村部にも越ヶ嶽治太夫という相撲の大関格の力士がおり、あまり強かったために殺されてしまったという話しが伝わり、その供養塔もあります。また、隣接する見附市内にも同様な話すと墓標が残り、こうした相撲の強者の墓標の伝承を調査することも意義深いものだと思います。

「富士山と丸石神の里を歩く」

〈有志一泊見学会に参加して〉

長岡市 荒井 昭

当会恒例の有志一泊見学会が七月一二日～一三日、参加者二一名で実施されました。車内で渡邊事務局長から見学地及びそのポイント等の説明があり、バスは一路富士山へと進みました。お楽しみの昼食は富士吉田名物・「吉田うどん」。腰が強く、噛むほどに味好しかったです。

最初の見学箇所は「富士山レーダードーム」。その2階で体験した、富士山頂の気象条件の変化と強烈さには、参加者から思わず悲鳴が上がるほどでした。次の「富士吉田市立歴史民俗博物館」では、神仏の住まう神聖な山としての富士山の歴史と信仰について、展示品に沿って説明を館員から受けた後自由見学しました。

続いて重要文化財に指定されている「御師宿坊・旧外川家住宅」を訪ねました。御師とは、富士浅間神社の神職の資格を持ち、富士山登拝の人（道者）の宿泊や諸々の世話、時には求めに応じて

祈祷札なども授けた神職でした。江戸・明治期には御師の家は八六軒も軒を並べていたといわれます。外川家を出て、旧御師街を歩き、街並みや庚申塔・道祖神などの建立を目にして、富士信仰の篤さを実感しました。

初日の締めは「北口本宮富士浅間神社」です。祭神は三柱（ニニギノミコト・オオヤマズミノカミ・コノハナサクヤヒメノミコト）。この浅間（せんげん）神社について、事前の渡邊事務局長の「浅間ニアサマはアイヌ語で火の噴く山の意」との解説を思い出し、浅間神社の呼称の謎が解けました。参道の鬱蒼と繁る樹木と苔生えて建ち並ぶ石灯籠に、神々しさと刻まれた歴史の悠久を感じながら宿泊地の楽しみの石和温泉に向かい



丸石神を囲み、熱心に丸尾氏の説明に興味深く耳を傾ける

ました。

二日目は、本見学会の眼目である「丸石神の里」を訪ねました。この探訪には、丸石神（道祖神）の研究者である山梨県立博物館の丸尾依子学芸員と堀内学芸員が全行程に同行解説して頂き、興味深きめ細かい見学をさせてもらうことが出来ました。深謝！

この地域の丸石神は、道祖神の数ある形態の中でも特殊なものと言えるでしょう。本当に丸い石。サイズは大から小まで様々、球体そのもので、極大のものは見る者を圧倒します。丸尾氏から紹介されたこの丸石神（道祖神）の小正月に行われる祭祀（道祖神祭り）は、地区毎に特徴があり、ぜひ実見してみたいという興味が強く湧きました。最後に番外編の信州・辰野町の「日本最古といわれる双体道祖神」を全参加者の一心一体となった熱意が通じ、みんなが愛用のカメラに納める事が出来、その感激を胸に帰途に就きました。

なお、この二日間、富士山は一度足りともその頂きの輪郭さえ我々に見せてくれませんでした。それは悪天候の予報にも拘らず、我々を降雨から救ってくれた日本一の富士の照れだったのかもしれない。

事務局だより

◇下越地区官学大会「下田地区の道祖神探訪」のご案内

旧下田村は県内でも双体道祖神の集中する地域です。大野鉄男さん（三条市）のご案内で当地区の道祖神や石仏を巡り歩きます。移動は参加者自家用車に分乗。

日時 11月6日（火） 9時～15時

集合 ①東三条駅前（8時45分）②八木が鼻温泉「いい湯らてい」前駐

車場（9時30分）

昼食「いい湯らてい」食堂（各自負担）

会費 一〇〇〇円 定員 20名

申込み 事務局・渡邊三四一（定員になり次第〆切）

次第〆切

◇第15回「石仏フォーラム」のお知らせ

今年も左記（概要）のとおりを実施予定です。早めに予定にお加え下さい。また研究報告の発表者、展示・書籍頒布の希望を募ります。なお詳細は、後日ハガキにてご案内します。

日時 11月18日（日） 10時～16時

会場 新潟県立生涯学習推進センター・

研修室（2階）

第一部 12時 公開講演「いがた民俗

散歩―私の写真帖から―

講師 佐藤和彦氏（新潟県民俗学会会長）

第二部 13時30分 研究報告（三丁四名）

第三部 15時30分 情報交換・展示解説

など

その他 午前・午後とも参加の方は昼食を
持参下さい。一般参加は資料代5
00円必要です。

◇情報カード「私の一押し石仏」に関するお願い

当会発足20周年記念事業として、来年秋に新潟県立歴史博物館との共催で石仏展を計画しております。企画展では会員の皆さんから地元の自慢の石仏を紹介して頂き、それらを同館ロビーにパネル展示したいと考えています。

つきましては同封の情報カード「私の一押し石仏」に必要事項を記入し、お気に入りの石仏写真（カラー・2L判）を同封の上、お手数ですが左記担当までお送り下さるようお願い申し上げます（送料各自負担）。

なお、データの場合は必要事項を添えて左記メールへ送信下さい。

送付先 〒959-0318 弥彦村麓6592

柏原路子

メールアドレス

最終〆切 平成25年3月末日（石仏フォー

ラム参加時に提出も可）

eflgosedo@nigata-sekibun.vox.jp

◇大楽和正氏が協会「夏期講座」で講演

恒例の日本石仏協会夏期講座が8月18日、19日の両日、巢鴨の大正大学大会議室で開催されました。初日第二講では、当会会員の大楽和正氏（新潟県立歴史博物館）が講師に招かれ、「神像の造形と表象―新潟・秋田県のシヨウキ様を中心―」を講演し、これまでの研究成果を踏まての興味深い発表を行い、大好評でした。



編集後記

秋分の日を間近に控え、当誌が皆さんのお手元に届いた頃には涼んでいるでしょうか。そう念じていたのですが、果たして……。あのあまりにも厳しかった夏の疲れを、自分に合った適度な運動でリフレッシュしましょう。（中越地区事務局）